

II 事業の概要

2020 年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりです。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、当初の計画から変更が生じています。

1 重点施策の推進

(1) 第2期中期計画の実施～長期ビジョンの実現に向けて

本学は、「学校法人明治大学長期ビジョン」の具体化に向けて、「第2期中期計画」(2018～2021 年度)を実行しています。2020 年度は、第 2 期中期計画の 4 年間にわたる計画の 3 年目として、単年度の中期プランを踏まえた予算の策定、部門目標への反映を行いました。

また、創立 150 周年を見据え、中期計画との連動を視野に入れた次期長期ビジョンの策定について、「学校法人明治大学 長・中期計画策定委員会」を設置し、検討をスタートさせました。

の創出に向け、「和泉キャンパス新教育棟(仮称)」工事に着手しました。創立 140 周年記念事業として、2022 年春の供用開始を目指します。



(3) 戦略的広報活動の展開～ブランド力を高める広報の推進

広報戦略本部を中心に、教育研究活動及びこれに伴う諸活動に関する情報等を広く学内外に発信するための広報戦略基本方針を策定するとともに、それに基づく最重点項目を設定し、本学のブランドを高める広報活動を推進しました。「明治大学広報」、広報誌「明治」等の紙媒体のほか、ホームページ、SNS 等各種媒体を通じた情報発信、メディア・記者に対するプレスリリース等により、“旬(しゅん)”な明治大学の情報を学内外に発信しました。

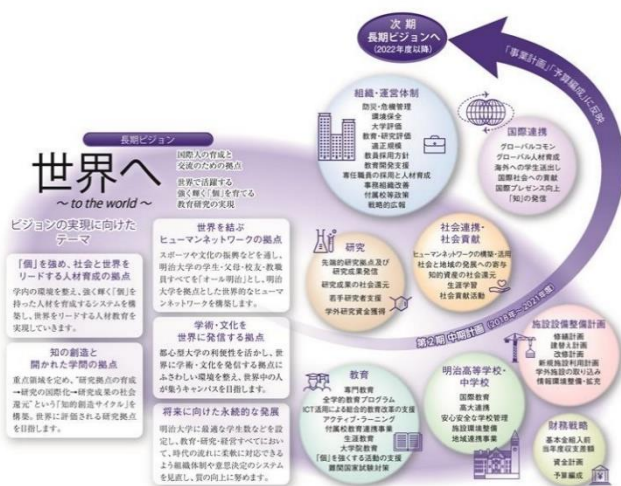
① ブランディングサイト「Step into Meiji University」をオープン

中高校生がスマートフォンから本学 Web サイトへアクセスすることを想定し、短時間で分かりやすく明治大学 10 学部それぞれの魅力や特徴、教育研究内容を知ってもらうことを目的に制作しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/stepinto/>

② 外国語ホームページをリニューアル

外国語ホームページを日本語ホームページと揃えた統一感あるデザインにリニューアルしました。また、明治大学の特徴を数字で分かりやすく伝えるコンテンツ「ALL ABOUT MEIJI」も別途、リニューアルを行いました。このコンテンツは、従来から 10 言語で展開しており、今回の改修で SNS シェアボタンなどを追加



本学構成員が中期計画を共有し、想いを一つにすることによって、引き続き長期ビジョンの実現を目指します。

中期計画の進捗・達成状況については、以下のリンクからご覧ください。

※https://www.meiji.ac.jp/chousaka/middleterm_plan_ver1.html

(2) 教育研究施設設備計画の推進～和泉キャンパス新教育棟(仮称)整備計画

和泉キャンパスにおける教室数の不足や教育施設の老朽化、さらには社会の激しい変化に対応し、総合的な知の基盤である「教養教育」を展開する『場』

したことで、より世界に広く明治大学を認知してもらうことを目的としています。

※<https://www.meiji.ac.jp/cip/english/allaboutmeiji/>

③ 在学生および受験生向け広報媒体の強化

在学生および受験生向けの情報コンテンツである「MEIJI NOW」は、週3～5回更新をし、時期に合ったトピックスを提供しています。Web開設後4年を迎え、2020年度末で92万回以上のアクセスがありました。

④ 「Meiji.net(メイジネット)」で研究紹介アニメーションシリーズが開始

本学と社会をつなげることを目的としたMeiji.net(メイジネット)の新規コンテンツとして、研究紹介アニメーション『Expand the World - Researches by Meiji University』が2月に完成し、計10本のアニメーションを随時公開しました。

(4) オール明治で前へ ～ステークホルダー(校友会・父母会)との連携

① 校友会との連携

おかえりなさい！母校へ！～第23回ホームカミングデー開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、駿河台キャンパスでの開催はせず、その代替措置として「特設サイト(ホームページ)」を開設し、動画配信等によるコンテンツにて実施しました。3,700名を超える校友やその家族等のアクセスがありました。

② 父母会との連携

ア 父母会総会・父母懇談会

父母会総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。懇談会は、「明治大学の「今」を知る父母による父母のためのオンラインイベント」と称して、8月に計6回オンラインで開催しました。学長自ら学内状況を報告し、理解と協力を求めました。また、就職キャリア支援、留学支援等に関しても大学担当者から説明をし、延べ1383人が参加しました。

イ 父母対象の就職懇談会

首都圏11地区の父母会は連合父母会と共催で、学部3年生の父母を対象とした就職講演会を10

月にオンラインで開催し、約750人の父母が参加しました。就職に対する父母の理解、子供への支援の在り方を考えてもらうことを目的に、1989年から続けられています。

(5) ステークホルダーをはじめ、皆様からの熱いご支援～募金活動の展開

① 寄付の実績

2020年度に本学が受けた寄付受け入れ実績は、8327件・9億2434万5364円(前年度比122%増)でした。

寄付金の主な内容については次のとおりです。

(※記載の金額は、2020年度に申請を受け付けた寄付金です。)

ア 明治大学創立140周年記念事業募金

2021年に本学が創立140周年を迎えるに際し、2019年4月1日から2022年3月31日まで周年記念事業(和泉キャンパス新教育棟(仮称)建設ほか)の展開を目的として寄付を募っています。

2020年度は893件、1億9883万9552円の寄付を賜りました。なお、寄付の顕彰として、寄付者銘板のほか新教育棟大教室兼ホールの座席に個人芳名プレート設置、また、寄付金額により各教室の出入り口横にも顕彰プレートを設置するなど周年事業募金独自の顕彰制度を用意してご支援を仰いでいます。

イ 未来サポーター募金

奨学、国際化、研究、スポーツ及びキャンパス整備の5つの資金(使途)から構成される募金制度です。主な募集対象者は校友、教職員、一般篤志家の個人・団体・法人で、寄付金の用途を寄付者自身が上記5つの中から選択できるのが特徴です。

2020年度は3312件、1億2673万4886円の寄付を賜りました。11月には、各資金における前年度の活用結果をまとめた「活動報告書」を寄付者の方へお送りし、寄付金の活用結果を報告しました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、対面での「ホームカミングデー」が中止となっ

たため、同イベントでの寄付受付も 2020 年度は実施しませんでした。

そのほか、寄付に関する情報や寄付者芳名等を掲載した「明治大学広報募金特別号」を9月に、「明治大学広報新春増刊号」を1月に発行し、全国の校友へ向けて送付しました。

ウ 教育振興協力資金

この資金は本学で最も歴史がある募金種別で、教育・研究の充実と発展に必要な経費として、主に学部生、大学院生、専門職大学院生の父母（一部本人も含む）と明治高等学校・中学校の父母を対象に募集しています。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で首都圏を中心に緊急事態宣言が2度発令され、対面授業をオンラインに変更するなど通常の教育活動に大きな支障をきたしました。また、感染拡大の影響に伴う失業や収入減など、多くの在学学生父母の経済状況に影響をもたらしました。

このような中、2020 年度は年2回在学学生父母約3万名宛に送付している「教育振興協力資金」の案内を中止しました。

個別の案内は中止しましたが、父母会各地域支部や父母の一部から寄付をいただき、2020 年度の教育振興協力資金は、59件・517万192円でした。

エ その他の寄付金

2020 年度は、4063件・5億9360万734円（前年度比約4億4679万円増）の寄付を賜りました。

内訳としては、6月に学長の提案によって「学生・教育活動緊急支援資金」が設けられ、3651件・4億2134万1672円と多大な支援が校友を中心に寄せられました。

他の寄付金では、学術研究奨励寄付金に約7930万円、校友会奨学金に2460万円、法曹会基金に約903万円などが挙げられます。

② 寄付者顕彰制度

本制度は、本法人に対する寄付金の総額に応じた顕彰を行うべく、2015年度に制定されました。2020年度は、創立140周年記念事業募金と学生・

教育活動緊急支援資金の募集開始に伴い高額寄付での反響が多く見受けられ、紫紺賛助員が5名、暁鐘賛助員が9名、白雲賛助員が60名誕生しました。

また、毎年実施している「高額寄付者称号授与式及び寄付者交流会」、「寄付者アドバイザーボード」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりました。

※<https://www.meiji.ac.jp/bokin/index.html>

(6) 創立140周年記念事業

① 周年記念事業の規模を縮小

明治大学創立140周年記念事業実行委員会において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ対応とそれに伴う学生支援を最優先に取り組む方針に基づき一部内容を見直すこととし、原則として集客を伴う事業については、オンライン配信が可能なものは実施形態の変更もしくは中止とし、集客を伴わない事業に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底したうえで、計画どおり実行することを決定しました。

② 創立140周年記念特設Webサイトの立ち上げ

2021年に創立140周年を迎えるにあたり、前年の2020年4月1日に、創立140周年記念特設Webサイトを立ち上げました。以後、実施する記念事業を特設サイトで紹介していく予定です。



※<https://www.meiji.ac.jp/140th/>

③ 創立140周年を記念した新聞広告の掲載

2021年1月17日(日)に、本学は創立140周年を迎えました。それを記念して、同日、朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞の各紙の朝刊・全国版に全15段広告(モノクロ)を掲載し

ました。



※<https://www.meiji.ac.jp/140th/konochikara/>

④ 広報記念事業の実施

総合数理学部の五十嵐悠紀准教授の研究(CG技術)を駆使して展示用バルーンめいじろうを制作しました。送風機で空気を吹き入れると、丸みのある愛らしいフォルムで高さ約3メートルのめいじろうが現れます。2020年度は、コロナ禍で披露する機会がありませんでしたが、今後はオープンキャンパスや学園祭などの大学の行事で使用していく予定です。



⑤ その他の周年記念事業

- ・創立140周年記念「明治大学子どものこころクリニック」を開院(詳細は20ページ)
- ・創立140周年記念「震災等復興活動支援活動の特設Webサイト」を開設(詳細は20ページ)

(7) 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン授業の実施に向けた環境整備と学生支援策を以下のとおり実施しました。

- ① 動画コンテンツ配信用メディアサーバ等増強
- ② SSL-VPN 同時接続数の拡張
- ③ オンライン会議システム(Zoom 有料版)の使用ライセンスの調達
- ④ 既存教室への天井カメラの導入(オンライン配信・収録用)
- ⑤ オンライン授業マニュアル(教員・学生用)の作成、配信、更新
- ⑥ オンライン授業実施に伴うサポート体制強化
- ⑦ 学内ネットワークキャパシティとアクセスポイントの増強
- ⑧ 無償貸与用ノートパソコン及びポケット Wi-Fi の調達
- ⑨ 経済困窮者を対象とした5億円規模の「緊急学生支援金」(一人あたり10万円給付)
- ⑩ 通信・印刷環境等の学修環境整備のための支援金(希望学生1名につき1万円支給)
- ⑪ 秋学期オンライン授業実施に伴う支援策として、秋学期授業を受講する全学生(本学に在籍する正規学生)一人につき4万円支給
- ⑫ 大学の拠出金と校友・教職員の寄付等を原資する「明治大学学生・教育活動緊急支援資金」(通称:学生緊急支援ファンド)の創設
- ⑬ 学費の延納期限の延長等

2 教学改革と教学運営体制の整備

(1) 「グランドデザイン 2030」

教学の長期ビジョンである「グランドデザイン 2030」を発表しました。これは、2031年の本学創立150周年を

見据え、建学の精神、理念、本学の使命を再確認すると同時に、10年後の本学の将来像(ビジョン)と、それを実現するための重点施策を示すものと位置づけ

ています。今後は、本法人が策定する次期長期ビジョンにおいて、本学の教学長期ビジョンとして、中期計画等へ反映されていくこととなります。

※<https://www.meiji.ac.jp/gakucho/granddesign2030/index.html>

(2) 教員組織の編制

本学の「教員任用計画の基本方針」において、教員組織の編成方針として、「各学部・研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施等の各種方針を実現するとともに、多様な研究、国際連携及び社会貢献活動を展開するため、ダイバーシティや男女共同参画推進の基本理念を踏まえ、男女比、年齢及び外国人教員の構成にも配慮した教員組織を整備する。」と示しています。このことに基づき、2020年度も任用計画の立案及び採用を行いました。

(3) 教育開発・支援センターの取り組み

本学の教育理念などへの理解を促し、自己啓発意識を高めることなどを目的に、2019年9月20日以降に採用された教員を対象とし「新任教員研修」をオンラインにて開催しました。教学運営体制、明治大学の

沿革、研究活動の現状、Oh-o!Meiji システムが創る新しい教育環境、入学試験の概要、就職キャリア教育などについて説明を行うとともに、人権講演会も実施されました。

(4) 内部質保証とIR(Institutional Research)環境の整備・推進

① 自己点検・評価

2020年度自己点検・評価(2019年度報告書)は、自己点検・評価全学委員会委員長である学長から評価委員会委員長である理事長に12月に提出されました。これを受け、学外有識者等も加わる評価委員会を1月に開催し、本学における内部質保証システムの有効性や学修成果の可視化の適切性などを議論しました。その評価結果も併せて、報告書として本学ホームページに公開しています。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/>

② IR環境の整備

2020年度も引き続き改善・改革を推進し、IRを活用して教育の検証を行いました。

3 教育関連活動

(1) 教育内容・方法の見直しと成果指標の確立

① 大学全体の3ポリシー及び学部等の3ポリシーの検証

策定した全学3ポリシー(「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)」、「入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)」)と、各学部が定める3ポリシーの連関について検証するなど、見直しの検討に取り組みました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/policy/aim.html>

② 学習成果の測定方法

すでに学習成果の測定が行われているプログラムの測定手法を参考に、学習成果の測定方法の開発に取り組みました。

(2) 大学院、専門職大学院の強化と充実

① 学部・大学院の接続・連携強化を促進

科目ナンバリング制度により、学部から大学院までのカリキュラムの体系化及び学部・大学院の接続・連携強化を促進しました。

② 法曹養成に向けて連携強化

専門職大学院法務研究科と法学部は、学生の司法試験受験までの時間的・経済的負担を緩和し、相互に連携したカリキュラムを編成し、効果的な法曹教育を行うことを目的として「法曹養成連携協定」を締結し、文部科学大臣認定を受けました。

連携先の本学法学部では、2020年4月、1年次に入学する学生から、協定に基づく一貫教育プログラム(法曹コース)を開始しました。

③ 【明治 MBA】経営系大学・大学院国際認証機関EFMDのEFMD Accredited 継続認証獲得

明治大学ビジネススクール(MBS)は、経営系大学・大学院の国際認証機関EFMD(本部:ベルギー・ブリュッセル)からEFMD Accredited MBAとして継続認証を取得しました。EFMD Accredited(旧EPAS認証)は、明治大学ビジネススクールが日本で初めて認証を獲得したもので、今回、初めて更新を果たしました。

(3) 意欲ある学生の安定的な確保

① 時代の要請に対応する入試改革

「2021年度(令和3年度)入学者選抜の概要について」を公表し、「大学入学共通テスト」の利用などについてお知らせしました。

② 付属校との連携

付属校である明治高等学校と大学が合同で設置している委員会において、生徒の学部選択につながる高大連携事業の見直しに係る検討を行いました。

(4) 図書館の充実

本学の教育・研究支援の中核機関であるとともに、生涯学習時代における社会貢献の拠点として活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開館時間短縮・利用者及びサービスを限定しての開館となったため、学生・教員に対して図書郵送貸出サービス、雑誌複写郵送サービス等を実施しました。

そのほか、オンライン学習や研究に役立つ情報を

図書館ホームページ上に掲出しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/library/index.html>

(5) 国家試験合格状況

試験名	2020年度
司法試験	30名
公認会計士試験	65名
国家公務員総合職	22名

※合格者数は、現役学生、卒業生及び関係者を含みます。

(6) コロナ禍における授業対応

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための明治大学活動制限指針」に基づいた授業運営を実施しました。また、コロナ禍において通学を望まない、通学できない学生に対しては、オンライン授業の並行配信も行うなど、2020年度以降も対面とオンラインのベストミックスによる新しい教育の形を見据えた授業運営を行います。

4 研究関連活動

学長を機構長とする研究・知財戦略機構は、研究活動を統括し、世界のトップユニバーシティを目指し、世界的水準の研究を推進するため、研究拠点の育成、研究の国際化の推進、成果の社会還元を目的としています。

同機構の下に設置されている「研究企画推進本部」及び「研究活用知財本部」を両翼として様々な研究政策を実施し、産官学連携活動を推進しました。さらに付属研究機関・付属研究施設等において研究活動を推進しました。2020年度の主な研究活動は次のとおりです。

(1) 産学官連携の活動

ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)が運営するナショナル ジオグラフィック(ナショジオ)、環境省、東京都、(株)ジュピターテレコム、(株)ジェイコム東京と協力し、小学生から高校生の親子を対象としたオンラインイベント「ナショジオ オープンキャンパスオンライン校～明治大学編～」を11月28日に開催しました。

(2) 拠点型事業の獲得・発展・継続～各インスティテュート、研究センター等の活動

拠点型研究として、以下のインスティテュート等にお

いて研究活動を推進しました。また、学際高等研究院を設置し、既存の専門分野だけでは確立できない分野融合型研究拠点構築を目指しています。

<インスティテュート>

① 先端数理科学インスティテュート(MIMS)～数理科学の国際拠点

※<http://www.mims.meiji.ac.jp/index.html>

② バイオリソース研究国際インスティテュート(MUIBR)～クローンブタで医療に貢献

※<http://muiibr.com/>

③ 国際武器移転史研究インスティテュート

※<http://www.isc.meiji.ac.jp/~transfer/>

④ 生命機能マテリアル国際インスティテュート

※http://www.isc.meiji.ac.jp/~a_lab/institute/

⑤ 再生可能エネルギー研究インスティテュート(MREL)

※<https://www.meiji.ac.jp/research/mrel/index.html>

<付属研究施設>

① 黒耀石研究センター

※<https://www.meiji.ac.jp/cols/index.html>

② 植物工場基盤技術研究センター

※<https://www.meiji.ac.jp/plant/index.html>

③ 地域産学連携研究センター(生田連携センター)

※<https://www.meiji.ac.jp/cii/index.html>

(3) 研究活動の適正化に向けた研究不正防止体制の整備

文部科学省のガイドラインに基づき、規程を定め、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を実施しています。

※<https://www.meiji.ac.jp/osri/guideline/compliance.html>

また、研究不正通報等の受付窓口を法律事務所に委託するとともに、不正防止計画推進部署として駿河台キャンパスに「研究倫理オフィス」を開設しています。

※https://www.meiji.ac.jp/osri/ethics_office/outline.html

安全保障輸出管理規程施行に伴い、情報や物品のやり取りを伴う国際的な研究活動を安全かつ円滑に遂行できる体制を整備しています。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/about/export/research/research.html>

(4) 外部研究資金の獲得

公的資金を原資とする研究費を中心に、外部研究資金の獲得拡大に向けた支援を行っています。加えて、大学から予算措置される研究所研究費、大学院

研究科共同研究、新領域創成型研究・若手研究、国際共同研究等があり、研究活動の推進・活性化を図っています。

※<https://www.meiji.ac.jp/research/promote/present.html>

① 2020年度「科学研究費助成事業」

本件の採択件数は新規と継続分をあわせて 342 件、金額は 7 億 3528 万円で過去最高を記録しました。分野別ランキング「中区分別採択件数上位 10 機関」では、本学は「03. 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野」において7位(私立大学では2位)にランクインしました。

(5) 論文のオープンアクセス化の推進

本学において創生された研究成果を広く学内外に公開し、そのアクセスを恒久的に保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与し、社会の持続的発展に貢献することを目的として、オープンアクセス方針を定めています。2020年度は、本方針に基づき、学内紀要のリポジトリへの包括的・一括的登録を推進し、論文のオープンアクセス化を進めました。

※ <https://www.meiji.ac.jp/koho/institution/6t5h7p0000256xtv.html>

5 社会連携・社会貢献

(1) 社会貢献を進めるために～社会連携機構

本学における教育研究活動を通じた地域連携活動の支援、生涯学習機会の提供等を推進することによって、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することを目的として設置されている機関が社会連携機構です。社会連携機構は、生涯教育の充実を図るリバティアカデミー及び地域連携を推進する地域連携推進センターから構成されています。

① 生涯学習の拠点～リバティアカデミーの展開

リバティアカデミーは、公開講座を中心とした生涯教育及び資格取得等職業能力の再開発・向上を図るための教育活動の役割を担っています。これまでも「本学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムとして産業社会や地域社会に提供し、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通して「開かれた大学」としての姿を追求してきました。2020年度は、新型コロナウ

イルス感染症拡大防止の観点から、すべての対面講座を中止して、一部の講座のみオンラインにて実施しました。

※<https://academy.meiji.jp/>

② 地域連携推進センターの展開

地域連携推進センターは、本学が国・地方公共団体、産業界、地域住民等からの幅広い要請に応え、地域社会と連携して地域人材の育成や地域課題の解決を図ることにより、本学における教育研究の発展と地域社会への貢献に寄与することを目的としています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面型や出張を伴う地域連携事業はすべて中止し、オンラインでの自治体連携講座や学生団体「明大町づくり道場」の活動支援など、一部の取り組みのみ実施しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/social/liberty/information/news2020.html>

③ 明治大学と大分県が連携協定を締結

明治大学と大分県は、2021年3月24日、連携協力に関する協定書を締結しました。今後、大分県とはスポーツ交流をはじめ、研究、地域振興など、幅広い分野における連携に取り組んでいきます。

(2) 博物館の充実

本学の教育・研究成果を社会に還元する学内共同利用機関として、学内外の諸機関等と連携した展覧会、公開講座等多彩な教育・普及活動を展開しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により8カ月に及ぶ臨時休館を余儀なくされたものの、開館再開後に黒曜石考古学にかかわる特別展を開催しました。新たに、明治大学博物館による収集・保管、調査・研究、教育・普及の成果をデジタル化し、継続的にコンテンツを増補しながら情報配信を行っていく、現在進行形のサイトとして「ONLINE ミュージアム」を開設しました。また、コロナ禍においても家で楽しみながら学べるコンテンツを提供する取り組みである「おうちミュージアム」に参加しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/museum/index.html>

(3) グローバル連携の推進

本学は2010年度から国連アカデミック・インパクト(U-NAI)に参加しています。また、持続可能な17の開発目標(SDGs)の達成に向けて、多角的な取り組みを行っています。

※https://www.meiji.ac.jp/gakucho/SDGs_index.html

(4) 震災等復興支援

震災等復興活動支援センターは、本学が指定した地震、暴風、豪雨、洪水等の自然災害における被災地及び被災者の復興活動を支援しています。これまで、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨等の被災地域を支援対象としてきました。

2020年度は、令和2年7月豪雨の被害を受けた大分県へ、支援物資計約1,600点を提供しました。

また、東日本震災発生から10年となる3月11日に明治大学ホームページ上に特設Webサイト「復興の軌跡と未来への継承」を開設し、明治大学が復興支援活動を通じて培ったネットワークや知見を活かして制作したコンテンツが多数公開されました。

※<https://www.meiji.ac.jp/social/reconstruction/0311/index.html>

(5) マンガ図書館

本学には、マンガ、アニメ等の資料を収集し、これを公開することを目的として設置された、米沢嘉博記念図書館及び現代マンガ図書館があります。

2020年度、これまで新宿区早稲田にあった現代マンガ図書館を本学駿河台キャンパス内に移転し、米沢嘉博記念図書館との複合的な運営を開始しました。

(6) 明治大学子どもこころクリニック

心理臨床センターは2021年1月に「明治大学子どもこころクリニック」を開設しました。センターでの「心理相談」と「精神医療」が連携しながら、子どもの成長・発達を支援する新しいクリニックとして、幅広い社会貢献を目指します。また、学生へ臨床・実習など質の高い教育機会が提供できることとなり、本学はオリジナルの教育システムを有する公認心理師・臨床心理士養成大学として先進的な存在となります。



6 国際連携

2020年度も、世界に羽ばたき、社会と世界をリードする人材教育の実現を目指して、国際化に関する取り組みを積極的に推進しました。

(1) 「スーパーグローバル大学創成支援」事業(SGU)

本学の取り組み「世界へ！ MEIJI8000 -学生の主

体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成-」が、2014年に文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプB「グローバル化牽引型」に採択されました。

2020年度、文部科学省が設置する「スーパーグロ

ーバル大学創成支援プログラム委員会」による中間評価(2回目)を受け、本学の総括評価は「A」となり、前回の総括評価を上回る結果となりました。

(2) 「大学の世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」

2016年度に採択された本構想は、CLMV諸国の実態や実情に鑑み、日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造することを目的としています。事業最終年度となる2020年度は、交流先であるCLMV諸国のパートナー大学の学生や教員とともに、オンラインでPBL(問題解決型学習)を実施し、国境を越えて学生同士が議論する有意義な機会となりました。また、事業の締めくくりとして、最終成果報告会をオンラインで実施しました。

(3) 戦略的提携校政策～協定校・協定機関の拡充～

海外の大学等との協力・協定については、2020年度も積極的に新たな協定を締結し、2021年3月末時点で57カ国・地域、363大学と協定を締結しており、うち46カ国・地域、269大学と学生交流のある協定を締結しています。

(4) 外国人留学生の受入れ・学生の海外送出し強化

2020年度の外国人留学生数は2,202名(学部:1,136名、大学院:465名、専門職大学院:167名、短期プログラム:434名)、海外派遣学生数は252名(協定留学:27名、認定留学:1名、短期留学:186名、その他38名)となりました。(2021年3月現在)

留学生の明治大学への疑問や不安を解消し、留学

に対する意識を高めることを目的とし、留学生のためのオンラインフェスタを7月に開催しました。大学説明会や模擬授業、現役留学生によるトークショー等を実施し、延べ620名の留学生が参加しました。

また、優秀な海外からの留学生を獲得するために、入口から出口までの一貫した支援政策に基づき、Web出願、戦略的広報のためのWebページの活用、日本語教育に係るカリキュラムの整備、経済的支援策、就職支援プログラムなどを展開しました。

海外留学を目指している学生には、オンラインによる留学相談(カウンセリング)、留学説明会、英語学習プログラムを実施したほか、海外大学によるオンラインプログラムの募集を行い、コロナ禍における留学対応とコロナ後を見据えた留学支援活動を実施しました。

(5) 教員のモビリティと教育の質向上

英語で授業を行う教員向けのオンライン研修として、カリフォルニア大学アーバイン校の講師による「授業英語化のためのワークショップ」を実施しました。参加者はその教授法をワークショップ形式で学び、それぞれの講義に活かしています。

(6) 短期受入プログラム

2020年度は海外の学生に日本の法や社会を学んでもらえるよう、オンラインプログラム「Law in Japan Program @ Home」の試行プログラムを7月に実施しました。学部間協定校のサンパウロ大学法学部(ブラジル)、南京師範大学法学院(中国)の学生をはじめ、ブラジルと中国の学生・社会人300名が参加しました。

7 学生生活支援

(1) 奨学金の充実

将来の有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、奨学金制度に基づき、給費奨学金・貸費奨学金等各種奨学事業を実施しました。

2020年度も、入学前予約型給費奨学金「おゝ明治奨学金」を募集しました。本奨学金は、本学へ入学を希望する、学業優秀でありながらも、経済的に困窮している受験生に、入学時及び入学後の経済支援を行うことを目的としています。

(2) 学生参加型プログラムへの支援

4キャンパスに設置されているボランティアセンター(VC)は、本学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養して、社会に有用な人材を育成することを目的としています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインにて地域との交流を実施し、特色ある活動を展開しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/index.html>

(3) 学生相談室の活動

相談内容の約3分の2が精神衛生に関わるものであるとともに、SNSのトラブルに関する相談など社会情勢の変化を反映して相談内容も多様化・複雑化していることから、学生相談機能の拡充を図っています。

また、憩いの場や交流の場の提供・心身の健康増進などを目的として、オンラインにて各種行事を開催しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html>

(4) 観る人に感動を～スポーツ関係

各部の活躍

ラグビー部	関東大学ラグビー対抗戦 優勝 令和元年度スポーツ功労者表彰 齊藤大朗選手(商 4), 松本純弥選手(政経 3) 国際競技大会優秀者等表彰
硬式野球部	入江大生投手(政経4)が横浜 DeNA ベイスターズから1位指名
サッカー部	第94回関東大学リーグ戦 優勝(2年連続6回目) 12名がJリーグ各チームに加入内定
競走部	第52回全日本大学駅伝対校選手権大会 3位(シード権獲得)
スケート部	フィギュアスケートグランプリシリーズ NHK 杯 樋口新葉選手(商 2) 女子シングル総合2位
拳法部	第65回全日本学生拳法選手権大会 優勝(15回目)
水泳部	第96回日本学生選手権(インカレ)男子総合優勝(7度目)
ボードセーリング部	全日本学生ボードセーリング選手権大学対抗戦(インカレ) 優勝(3連覇)



(5) 就職・キャリア形成をバックアップ

本学の学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養して主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、社会に有用な人材を輩出することを目的としています。

就職キャリア支援センターでは、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での支援は実施できませんでしたが、学生の相談や行事等をすべてオンラインに切り替え、対面とほぼ同等の支援を行いました。

※<https://www.meiji.ac.jp/shushoku/index.html>

8 男女共同参画と平等の実現

「明治大学男女共同参画推進基本計画」の実現に向け、様々な施策を推進するとともに、本学のすべての

構成員が「違い」にかかわらず、キャンパスのあらゆる場において平等に活動し、尊重される環境の整備に取り

組みました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity/index.html>

(1) ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み

多様な価値観を受容し、共に学び共創する大学を目指し、2018年度に「明治大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を公表し、「ダイバーシティ&インクルージョンプラットフォーム協議会」を設置しました。

2020年度は、本学役員及び教職員を対象に、「職場における取組の課題～働きがいと働きやすさを考える～」と題した講演会を実施し、本学において多様な人材が活躍できる働き方の実現に向けて、多くを学ぶ機会となりました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity-and-inclusion/index.html>

(2) 次世代の女性研究者育成

次世代の女性研究者育成につなげるため、理系女子応援企画とし、Webサイト上に「理系女子のキラキラキャンパスライフをもっとのぞいてみよう」を公開し、女子中高生の理系進路選択について理解を深める機会を提供しました。

(3) レインボーサポートセンター

本学の学生に対する多様な性に配慮した諸施策を推進することにより、性の在り方にかかわらず、すべての学生が適切に教育研究その他の活動を行うことのできる環境の整備、並びに、あらゆる多様性を受容・尊重できる価値観を有する人材の育成に資することを目的として設置され、2020年10月に開室しました。

9 入学試験関連

(1) 2021年度入学試験志願状況

一般選抜の志願者数は、学部別入学試験 55,209人、全学部統一入学試験 16,342人及び大学入学共通テスト利用入学試験 27,919人の合計99,470人となりました。

※<https://www.meiji.ac.jp/exam/index.html>

(2) 2020年度オープンキャンパス@home

受験生等に向けて自宅にいながらも明治大学の授業やキャンパス、学生生活を体感できるWeb企画“オープンキャンパス@home”を公開しました。また、8月に計3日間“オープンキャンパス@home”個別大相談会を実施し、5.7万回以上のアクセスや423件の相談がありました。

※<https://www.meiji.ac.jp/exam/event/opencampusathome/index.html>

10 卒業・修了の状況

本学は、130年を超える歴史と伝統の中で、創立以来57万人を超える卒業生を輩出してきました。

2020年度は、各学部の卒業生7,153名(うち9月卒業264名)、大学院の修了生は博士前期課程630名

(うち9月卒業4名)、博士後期課程39名うち(9月卒業2名)、専門職学位課程255名(うち9月卒業なし)、高等学校・中学校の卒業生436名(高等学校258名、中学校178名)となりました。

11 教育研究環境の整備

本学の、より一層の発展に寄与するため、教育研究環境の整備等を行いました。

引き続き、教学の要望、既存校舎の劣化度合、財政的支出のバランス、外的環境等を総合的に勘案しながら、

教育施設、研究施設、学生環境の整備を推進します。あわせて、安全かつ高度な教育研究環境を守るため、既存施設の修繕、改修を適切に実施していきます。

12 学校法人の管理・運営

(1) 新理事会が発足

柳谷理事長は再任、新学長に大六野教授

2020年3月30日に評議員会を開催し、理事長に柳谷孝氏、学長に大六野耕作政治経済学部教授の

就任を決定しました。理事10人も選任され、4月1日付けで新理事会が発足しました。任期はいずれも4年間です。

また、新監事3名を選任し、うち1名が常勤監事に

任命されました。任期は2020年6月1日から2024年5月31日までの4年間となります。

(2) 格付投資情報センターから「AA」の格付を取得

3月に、株式会社格付投資情報センター(R&I)から5回目の格付評価を受け、2019年度と同じ「AA」[格付けの方向性:安定的]でした。本学の持つ教育・研究の質の高さと学生募集力、就職実績、卒業生の厚み、国際化推進及び教育力の向上に向けた改革への取り組みなどが総合的に評価されたものです。

(3) 環境保全に配慮した大学の運営

2020年度は、環境保全にかかわる教育活動の一環として、教職員・学生へ環境問題・環境保全にかかわる情報とともに、本学の環境保全活動を紹介し、関心を高めるため、オンラインにて「明治大学環境展」を実施しました。環境関連ゼミナール等の研究成果発表、環境に配慮された施設設備の紹介、環境に関連する明治大学図書館蔵書リスト、新型コロナウイルス感染予防対策ポスターなどで、私たちを取り巻く環境問題や、本学の環境保全への取り組みについてわかりやすく解説しました。

また、エネルギー使用量等の環境保全活動につい

て、本学ホームページに公開しました。

※<https://www.meiji.ac.jp/koho/academeprofile/activity/environmental/6t5h7p00001q7gth.html>

(4) 付属校・系列校政策

法人の健全な運営及び教育研究活動の永続的な発展のためには、学生の「数」と「質」の確保が不可欠です。学生の「数」と「質」の確保に向けた方策のひとつとして付属校・系列校政策が重要である、との認識を共有し、付属校・系列校強化推進について具体的に検討を行ってきました。推進にあたっては、学校種、立地、規模、設置形態等の課題について慎重に見極めながら、あらゆる可能性を視野に入れた検討を継続しました。

(5) 校歌の日制定

校歌に歌われている明治大学のアイデンティティを知り、明大生であることの誇りを確認する日として10月28日を「校歌の日」と決めました。これは、100年前に校歌が初めて演奏された日となります。

また、ミニドキュメンタリー「明治大学校歌の原型を聴く」を公開しました。

13 付属明治高等学校・中学校

(1) 国際教育の推進及び特色ある教育の実現

2020年度は下記のプログラムを実施しました。

① 英語力強化施策・グローバル化推進

英語教材の「多読」を継続して促進しており、蔵書は7,000冊になりました。「スピーチコンテスト」を開催し、受賞者は校内で英語研修を受講しました。

② 高大連携の推進

ア 高大連携講座

イ プレカレッジプログラム(オンライン)

ウ サマーセミナー、スプリングセミナー、ウィンターセミナー(対面及びオンライン)

(2) 教育研究環境の充実

本校の保守整備計画策定に基づき、補修工事を行いました。また、ICT教育環境の推進に向けて教室の整備も実施しました。

(3) 地域連携事業の展開

本校がある調布市とは、相互協力検討会での協議を通して中学生の職業体験等、市との関連事業を増やしていますが今年度は実施が見送られました。

(4) 安全安心な学校管理

コロナ禍において対面授業を実施するため、生徒の「行動基準」を定め、あらゆる角度から感染症対策を施し、安全安心な学校生活を送れるように環境を整備しました。